

東京大学 平成28年度推薦入試 入試結果

平成28年度より新たに導入された東京大学の推薦入試については、下記のようなスケジュールで選考が行われた。導入初年度ということもあり各方面から注目を集めた入試となったが、今年度は募集人員100名に対し77名の合格という結果となった。

■平成28年度 東京大学推薦入試結果

学部・学科	募集人員	出願者数	第1次 合格者数	最終 合格者数	実質倍率	入学許可科類	
法学部	約10人	24	24	14	1.7	文一 14名	
経済学部	約10人	7	7	4	1.8	文二 4名	
文学部	約10人	10	10	3	3.3	文三 3名	
教育学部	約5人	9	6	4	2.3	文三 4名	
教養学部	約5人	17	11	2	8.5	文一 1名	文三 1名
工学部	約30人	47	44	24	2.0	理一 24名	
理学部	約10人	32	24	11	2.9	理一 8名	理二 3名
農学部	約10人	12	12	9	1.3	理二 9名	
薬学部	約5人	4	4	3	1.3	理二 3名	
医学部 医学科	約3人	9	5	2	4.5	理三 2名	
医学部 健康総合科学科	約2人	2	2	1	2.0	理二 1名	
計	約100人	173	149	77	2.2		

■第1段階選抜は提出書類の内容により行われ、合格率は86%という高い数値となった。なお、学部によっては第1段階選抜で不合格者を出さなかった学部もあった。

■最終合格者は、提出種類の内容、面接等の審査結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して決定された。なお、センター試験の成績には8割程度以上という基準点が設けられていたが、これはあくまでも「基準点」であり、センター試験の得点の優劣だけで合否が決定するようなことはない。センター試験の成績が基準点に多少届かなくとも、総合的に要件を満たすと判断されて合格した者もいたとのことである。

■合格者数が募集人員に満たない結果となったが、大学側は合格者の質には満足しているものの、募集要項に記載されている「求める学生像」のハードルが高かった可能性も示唆し、来年度は要項の表現や高校への周知について、高校とも連携をとりながら改善していく意向を示した。

■内訳

①学部別状況…

法学部では募集人員を上回る14名の合格者を出した一方、経済、文、教養、工、薬学部などは合格者数が募集人員を下回った。

②入学許可科類状況…

文科一類は法学部の合格者14名の他、教養学部の合格者1名が所属、理科一類は工学部の合格者24名の他、理学部から8名のあわせて32名、文科三類は文、教育、教養学部から計8名、理科二類は理、農、薬、医(健康総合科学)の各学部から計16名

③男女別状況…

男子48名、女子29名(女子の比率は38%)

※2015年度の一般選抜における女子合格者数比率…前期日程18%・後期日程14%

④高校所在地都道府県別状況…

東京都20名(26%)、東京を除く関東地区14名(18%)、それ以外の地区43名(56%)

この結果に対し、大学側は「推薦入試の基本方針である<学生の多様性の促進>に見合った結果と捉えている。」とし、多様性促進の理由として、出願できる人数を<1校につき男女各1名まで>と制限したことを挙げている。

■今回合格者が募集人員に満たなかった残余分は、各学部が主に対応する科類の前期日程募集人員に繰り込まれる。

■本推薦での合格者については、「進学選択制度(進振り)」によらず、後期課程(3年次以降)で今回合格した学部に進学する。前期課程(1・2年次)は各学部の担当教員が選考の過程で合格者に適していると判断した科類に配属される。